

予想模試① 解答

I

1 慈円。保元の乱が起きたことで衰退していく貴族の運命と武士の台頭を末法思想の影響を受けつつ、歴史は必然的な「道理」に基づき展開するという史観に立って叙述し、鎌倉幕府の成立を肯定した。そこには、九条家の公武協調策を擁護し、後鳥羽上皇の討幕計画を諫めようとする意図があった。2 中世は、国人や地侍、惣村などによる多元的・分権的な社会であったため、様々な身分の人々が階層ごとや階層を超えて多様な一揆を結び、また、仏教をよりどころとした宗教一揆も存在した。しかし近世では兵農分離が進んで武士が城下町に集住し、寺院は統一権力の統制のもとで民衆支配の末端を担い、鎖国によりキリスト教も排除されたため、武士や宗教勢力を担い手とする一揆は島原の乱を最後として消滅し、村請が採用されたことから百姓による一揆だけが存続した。3 入会地・用水の共同管理や荘園領主などに対する減免要求、略奪に対する自衛のため。(391 字)

II

1 征韓論を主張する西郷隆盛らと、内治優先を主張する大久保利通らが激しく対立し、征韓派が敗れて政府を去ることになった明治六年の政変が起こった。2 第一国立銀行。洋式簿記を導入すると共に、他の国立銀行にも近代的銀行業務を普及させた。3 松平定信。軽犯罪者を収容する人足寄場を設けて訓練治安の安定をはかり、町予算の節約分の7割を積立させる七分金積立の制度を設け、貧窮者への低利融資を行った。明治に入ると渋沢栄一がこの七分金の取り締まりを囑託され、東京市養育院や種々の公共事業の原資として用いられた。3 最新鋭で熟練を要しないリング紡績機を大規模に導入した大阪紡績会社では低賃金の女工たちを大量に投入し、昼夜二交代制という過酷な労働により安価で上質な製品を作った。最新鋭の工場で労働者の犠牲により紡がれた国産の綿糸・織布は国内市場を席卷し、中国などのアジアへの輸出産業として市場を拡大していった。(391 字)

Ⅲ

1石炭小委員会。生産力回復を目的とし、復興金融金庫の融資などで、基幹産業部門である石炭・鉄鋼などに資金と資材を集中的に投下する政策。2冷戦構造の拡大を背景として、非軍事化・民主化から、西側陣営の一員として日本の経済自立を促す方針に転換した。経済安定九原則を指令する一方、政令 201 号および国家公務員法改正により官公庁労働者のスト権を剥奪し、超均衡予算の強行でインフレの進行を抑え、財閥解体を中止して独占的な大企業を中心に日本経済が再建される土台を固めた。朝鮮戦争の際には警察予備隊を創設し、共産党幹部の公職追放や官公庁・報道機関からの共産主義者のレッド＝ページを進めて、日本を反共の基地とした。3アジア諸国の綿製品時給能力が高まり、生糸の代替品の合成繊維が普及して、繊維製品の輸出で多額の外貨を獲得するという戦前の方式は継続できなくなった。また、原材料・燃料の資源地であった植民地も喪失した。(394 字)